

香大生のペットボトルキャップが世界を救う！？

代表者 木村 友香 (法学部 法学科 3年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、私たち香川大学生一人一人のSDGsに対する意識・関心向上を目的としたペットボトルキャップ回収活動である。

2015年9月に国連サミットでSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、そのなかで、貧困や飢餓、気候変動問題などを含む全17のゴールを掲げられた。しかしながら、SDGsという言葉が広まりつつも、実際に活動するにあたっては「かたい」や「広すぎる」、「難しい」といったイメージを持つ人が多いのが現状といえる。

そこで①ペットボトルキャップを回収し、最終的にワクチンとして寄付したり、②SDGsに関するポスターを掲示したりすることで、私たち大学生でも身近にできるようなSDGsの取り組みに気づき、より興味を持ってもらうことを目的としてと働きかけた。

2. 実施期間（実施日）

令和3年6月1日から 令和4年2月28日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、具体的に4つの活動を行った。1点目はペットボトルキャップ回収。2点目はSDGsに関するポスター掲示。3点目はのぼりの設置。4点目は環境問題に関する2回のアンケートの実施である。

【ペットボトルキャップ回収】

設置場所：食堂前のごみ箱横、DRI棟1階ゴミ箱横、DRI棟2階ゴミ箱横

香川大学の学生、プロジェクト活動で交流し協力していただいた林小学校で集めた結果、20000個のペットボトルキャップを回収し、ペットボトルキャップ回収業者である松山容器株式会社に送ることができた。

令和4年1月分エコキャップ受入実績

受入日	受入者名(敬称省略)	受入重量(kg)	
1	1/5	津田 雅士	5.0
2		公明党 西条支部 高橋 淑子	86.0
3		嶋津 菜緒	1.5
4		松山市立唐小学校	96.0
5	1/6	藤坂 祐輔	2.3
6	1/7	松前町社会福祉協議会	110.0
7		愛媛県立今治北高等学校 大三島分校	17.0
8	1/8	愛媛県立今治高等学校 伯方分校	26.0
9	1/11	高浜公民館	5.7
10	1/12	松山市社会福祉協議会 ボランティアセンター	160.0
11		日本郵便株式会社 松山西郵便局	30.0
12	1/13	愛媛県 本庁舎	7.0
13	1/14	株式会社セブンスター	870.0
14	1/17	トヨタモビリティパーツ株式会社	5.0
15		匿名希望	3.7
16	1/18	松山市社会福祉協議会 ボランティアセンター	130.0
17		ミサワホーム四国株式会社 今治オフィス	2.5
18		伊予市社会福祉協議会	76.0
19	1/20	四国西濃運輸株式会社	4.0
20		学生ESDプロジェクト SteepP	46.4
21		香川大学 法学部・経済学部 学生ESDプロジェクト SteepP	50.0
22		カクタイ株式会社 本社	13.0
23		愛媛トヨペット株式会社 空港通本店	6.0
24		愛媛県 本庁舎	7.0
25	1/21	キョクヨーブーズ株式会社	17.0
26	1/22	太陽石油株式会社 四国事業所	4.0
27	1/24	松山市立余土中学校	60.0
28	1/25	松山市社会福祉協議会 ボランティアセンター	80.0
29	1/26	松山市立余土中学校	80.0
30	1/28	グループ若草	80.0
	合 計		2050.7



【SDGsに関するポスター掲示】

設置場所：全学共通掲示板、経済学部掲示板、教育学部掲示板、法学部掲示板に2枚ずつ右のようなポスターをはじめ5種類を掲示。掲示板は学生がよく目にする場所であるため選定した。またポスターには、SDGsを身近に感じてもらうために自分たちにもできること身近なことを掲載するなどした。多くの学生に見てもらうために工夫した。



【のぼりの設置】

設置場所：415教室前に2本
学部問わず、幸町キャンパスを利用する学生が多く通る415教室前に設置することで、認知度向上を目的に実施。



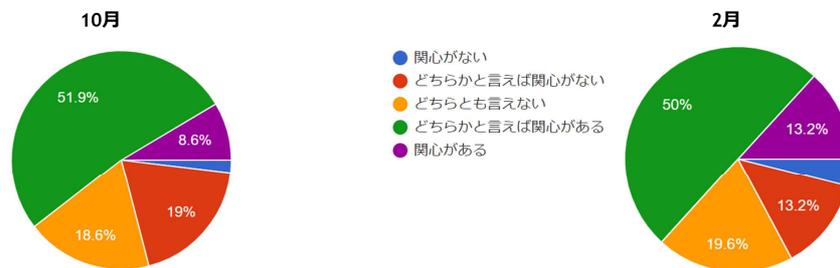
【環境問題に関する2回のアンケートの実施】

環境システム論の授業で10月、2月に同内容のアンケートを行い学生の意識の変化を調査した。10月は男子93人、女子115人、その他2人の計210人。2月は男子98人、女子103人、その他3人の計204人を対象とした。

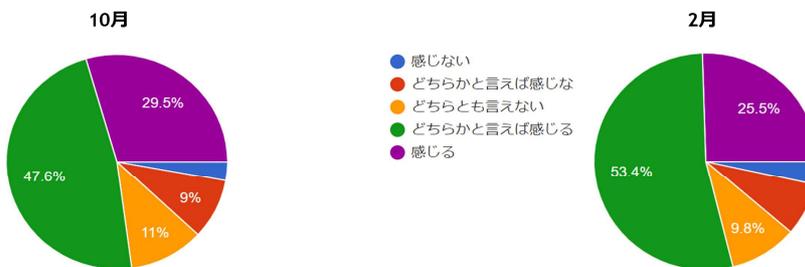
アンケート結果からもわかるように、10月に比べ2月では、学生の環境問題に関する

意識の向上があった。

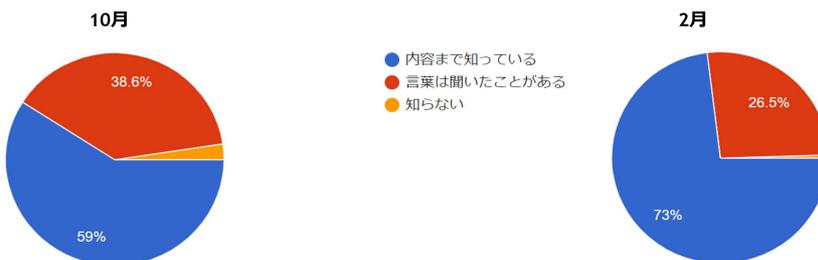
①環境問題に関心があるのか



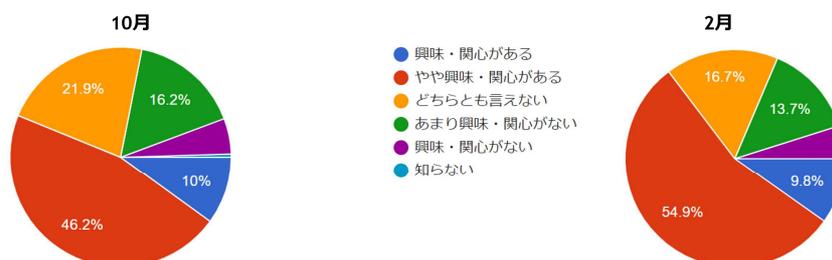
②環境問題に危機感を感じているのか



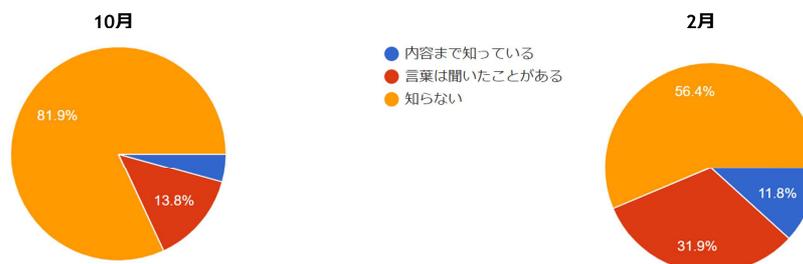
③SDG sを知っているのか



④SDG sに関心があるのか



⑤SteeepPが行っているエコキャップ活動を知っているのか



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を実施したことにより、香川大学生がSDGsについて興味を持ってもらえる機会を創出することができた。

また、当初は対象者を香川大学生に限定して行っていたが、事業を進めるなかで高松市立林小学校のみなさんに、この事業に深く興味を持って頂き、共にペットボトルキャップ回収に取り組むなど学内の域を越えて活動することができた。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この事業では、香川大学生の日々の生活様式を少し変えるだけで環境問題や貧困問題について取り組むことができることを知ってもらうことを目標にしており、その目標を達成できたと考えている。アンケートの実施結果からも（「3. 成果の内容及びその分析・評価等」のアンケート結果の円グラフ参照）分かるが、香大生の環境問題やSDGsへの関心をより大きく確かなものにできたと考えている。

ペットボトルキャップは、洗うことを負担に感じりサイクルせず捨てられたり、ポイ捨てされたりされやすいモノである。大学構内にペットボトルキャップ回収ボックスを設置することで、ニュースやSNS等で取り上げられている世界の問題を香川大学生が身近な問題として捉えることへ繋げることができた。また最終的には、自発的に問題を考え行動するきっかけとなり、環境問題や持続可能なまちづくりなど、私たち香川大学生の取り組みによって身近な問題に貢献できたと考えている。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点は、コロナ禍のために積極的な広報活動が行えなかったことである。当初の予定では、ペットボトルキャップを集めることにはどのようなメリットがあるのか等、知ってもらうためのチラシを作成して配布するという計画を立てていたが、実際には実施できなかった。また、ペットボトルキャップ集めに対する私たちの認識が甘く、ペットボトルキャップが本当に集まるのか不安になるという事態もあった。

今後の計画としては、コロナ禍にも対応できるよう、広報活動はSNSを中心とした情報発信に力を入れるなど、できることを模索していきたいと考えている。また、最初の事業計画の段階でしっかりと見積もりを持つようにし、事業を成功させることが出来るよう、

これからも努めていきたいと思う。

感想として、今回の事業を通して、香大生の意識を変えることを目標としていたが、結果として携わった自分たちの意識も変えることが出来た。身近な取り組みにとって少しでも環境を救えることや環境問題の解決に関われることを改めて実感した。この気づきを大切に、これからも活動を頑張っていこうと思う。

7. 実施メンバー

代表者 木村 友香（法学部3年）

構成員 濱田 悠那（法学部3年）

松下 千華（経済学部2年）

日笠 綾音（経済学部1年）

中山 由理（教育学部1年）

橋本 明依（教育学部1年）

汐崎 弘芽（創造工学部1年）

平松 英晟（農学部1年）

山本 莉子（経済学部1年）

松原 朱里（創造工学部1年）

西馬 あい（経済学部1年）

寺内 柚太（法学部2年）

藤田 七虹（創造工学部3年）

満 南菜子（教育学部1年）

美馬 妃華（経済学部1年）

尾崎 遥（創造工学部1年）

武石 尚大（創造工学部1年）

大立 愛（教育学部1年）

黒田 葉月（経済学部1年）

山下 春乃（教育学部1年）

山名 陸斗（創造工学部4年）

8. 執行経費内訳書

配分予算額		61,448円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
段ボール20枚入り	1		9,389	
高松市指定ごみ袋（10枚）	1		418	
のぼりデザイン			6,800	
のぼり（45cm×160cm）	3		8,070	
のぼりポールスタンド	3		3,879	
配送料			10,010	
合計			38,566円	